

## T O P I C S

## 石川産原料を用いた伝統的釉薬の研究

—陶磁器原料として草木灰を利用—

九谷焼技術センター

高橋 宏 (たかはし ひろし)

thiroshi@irii.jp

専門：陶磁器

一言：温故知新



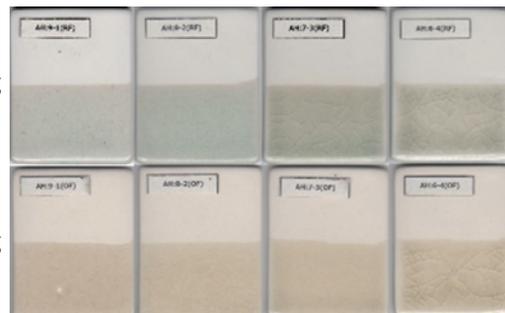
陶磁器の素地には、釉薬(ゆうやく、うわぐすり)と呼ばれるガラス質材料が施されています。九谷焼の特徴の上絵加飾は、釉薬が重要な役割を担っています。

現代では、国内各地や海外の原料を用いた釉薬が主流であり、九谷焼も例外ではありません。このため他産地との差別化のため、地元原料を使った釉薬の開発が求められています。伝統的手法として釉薬は、陶石と草木の焼成灰で作ることができますが、草木灰の成分は生育環境で変化するため、安定的に利用するための工夫が必要となります。

そこで本研究では、地元で調達した原料で安定的な釉

薬を作るため、灰に必要な処理である「灰汁(あく)抜き」の効果を調べました。灰汁抜きは、灰からの水溶性のカリウム成分の除去と、石灰分(炭酸カルシウム)の精製工程であり、安定的な釉薬原料として使うには、カリウム成分が十分に抜ける約二ヶ月以上の処理が必要であることがわかりました。釉薬の調査試験のサンプルを図に示します。灰:陶石=3:7の割合が、表面光沢などの状態から基礎的釉薬として期待できることがわかりました。

今回作製したサンプルは、実際に手に取って質感などを確認することができますので、灰を使った釉薬調合にご興味のある方は、ぜひご相談ください。



□ 釉薬調査試験サンプル

左から、灰:陶石=1:9、2:8、3:7、4:6